

第6章 学生支援

1. 現状の説明

(1) 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

【評価の視点】

・大学の理念・目的、入学者の傾向等を踏まえた学生支援に関する大学としての方針の適切な明示

1) 大学の学生の支援に関する「基本方針」を次のとおり定め、「修学支援」、「生活支援」、「進路支援」について、それぞれ具体的な方針も定め、ホームページに掲載している。

＜基本方針＞

本学は、学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）を基盤として教育を実践し、教員と学生間の距離が近いという伝統を背景に、学生一人ひとりが個性を發揮し、充実した学生生活を送れるように次のような支援方針を定めます。

1. 学生が主体的に学修に取組み、資質・能力を十分に伸ばさせるとともに、生涯にわたり学び続ける態度が身に付くように支援します。
2. 学生の心身の健康保持に留意し、生活上の問題に関する相談に応じるなど、学生が安心して学修に専念できるように支援します。
3. 学生が課外活動や正課外プログラムを通じて学生生活を豊かにし、学是「仁」の心を育むとともに人間的成長と自立を促すように支援します。
4. キャリア形成指導に注力し、学生一人ひとりの特性と希望に沿った適切な進路選択を支援します。

(資料6-1 順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「各種方針」 「学生の支援に関する方針」)

(2) 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

＜学生支援体制の適切な整備＞

1) 担任制やアドバイザー制を設けることで、学生一人ひとりに対するきめ細かな指導を行うことを明確にしている。修学、学生生活に係る支援については、各キャンパスの学生部で対応することに加え、学生相談室等も設けることで手厚くサポートすることとしている。進路支援については、各キャンパス事務室（さくらキャンパスは就職課）にて行うこととしている。

(資料6-2 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学生生活案内)

(資料6-3 順天堂大学さくらキャンパス CAMPUS LIFE)

(資料6-4 医療看護学部学生便覧)

(資料6-5 保健看護学部学生便覧)

(資料6-6 学校法人順天堂組織規則 別表第1 学校法人順天堂 組織機構図)

(資料6-7 学校法人順天堂事務組織規程 別表第2 事務分掌表)

2) 学生部委員会が主体となり、全学部で統一した学生生活実態調査（アンケート）を実施し、定期的に学生生活及び学修行動の実態把握を行い、学生支援を充実させることとしている。

(資料6-8 平成28年度 合同学生部委員会 学生生活実態調査結果比較資料)

3) 「学校法人順天堂健康管理規程」を制定し、健康管理室、校医等を置き、学生の健康管理を

第6章 学生支援

行っている。

(資料6-9 学校法人順天堂健康管理規程)

- 4) 学生生活を送る上での注意点や必要事項を記載した学生便覧や学生生活案内を学部・研究科ごとに作成し、新学期のオリエンテーションで配付・説明している。

(資料6-2 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学生生活案内)

(資料6-3 順天堂大学さくらキャンパス CAMPUS LIFE)

(資料6-4 医療看護学部学生便覧)

(資料6-5 保健看護学部学生便覧)

(資料6-10 スポーツ健康科学部学生要覧)

(資料6-11 大学院医学研究科修士課程シラバス)

(資料6-12 大学院医学研究科博士課程シラバス)

(資料6-13 大学院スポーツ健康科学研究科博士課程要覧)

(資料6-14 大学院医療看護学研究科教育要項)

- 5) 保護者会との連携を図り、学年ごとの保護者会では教員と保護者との懇談会を実施し、学年に応じた情報提供を行い、学生生活全般に関する支援状況を伝えている。更に、保護者との意見交換を行うなど、大学と家庭との連携・協力を努めている。

- 6) 大学院研究科では、社会人学生が修学しやすいよう平日の夜間や土曜日に開講するなど、修学全般に渡り、支援するという方針を明確にしている。また、医学研究科博士課程では、国立がん研究センター、国立国際医療研究センター及び国立病院機構相模原病院と連携大学院協定を締結している。連携大学院協定では、それぞれの機関に籍を置きながら、社会人学生として本学大学院医学研究科博士課程の授業科目(大学院の専門プログラム)の単位を修得可能とし、各機関で行った研究の成果をもって学位の取得が可能となっている。

(資料6-11 大学院医学研究科修士課程シラバス)

(資料6-12 大学院医学研究科博士課程シラバス)

(資料6-15 大学院医学研究科博士課程連携大学院)

(資料6-16 大学院スポーツ健康科学研究科パンフレット)

(資料6-17 大学院医療看護学研究科パンフレット)

- 7) 医学部とスポーツ健康科学部では1年次を全寮制とし、さくらキャンパスで寝食を共にすることとしている。全寮制は本学開学以来実施し、人間関係を体験する場として活用され、本学の教育の特色ともなっている。その基本目標は、学寮での団体生活における「他を慮る心の涵養」と「団体の中における個の確立」である。

《学生の修学に関する適切な支援の実施》

【評価の視点】

- ・学生の能力に応じた補習、補充教育
- ・正課外教育
- ・留学生等の多様な学生に対する修学支援
- ・障がいのある学生に対する修学支援
- ・成績不振の学生の状況把握と指導
- ・留年者及び休学者の状況把握と対応

- ・退学希望者の状況把握と対応
- ・奨学金その他の経済的支援の整備

- 1) 「災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、非常災害等の被災による経済的理由から、修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額または一部を免除することにより、学業の継続及び進学を支援している。
(資料6-18 災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程)
- 2) 「経済的理由による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、経済的理由から修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額または一部を免除することにより、学業の継続及び進学を支援している。
(資料6-19 経済的理由による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程)
- 3) 「順天堂大学外国人留学生授業料減免規程」を定め、私費外国人留学生に対し、その経済的負担を軽減するため、授業料を減免し、学業の継続及び進学を支援している。
(資料6-20 順天堂大学外国人留学生授業料減免規程)
- 4) 「卓越した学生に対する学納金減免に関する規則」を定め、成績優秀者等の卓越した学生(学部学生・大学院生)を対象とし、学納金を減免することで教育研究の活性化を図っている。
(資料6-21 卓越した学生に対する学納金減免に関する規則)
- 5) 「順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金」を定め、国際的に活躍し、学生・教職員の模範となる人材を対象とし、教育・研究・競技の活性化を図っている。
(資料6-22 順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金給付規程)
- 6) 日本学生支援機構の奨学金や、各学部・研究科ごとの奨学金を多く用意することで、修学支援を図っている。また、経済的理由により学納金を期日までに納入できない場合、学納金延納願を提出することにより延納を認める等の措置を講じている。
(資料6-23 奨学金給付・貸与状況)
- 7) 大学院医学研究科では博士課程入学者のうち医師免許を有し、本学医学部附属病院において常勤医として診療に従事している大学院生を対象に、月額10万円の診療手当を支給している。
(資料6-24 大学院生・シニアレジデント処遇について)
- 8) 授業を欠席しがちな学生や、成績不良者には各教科の担当教員や学生部長、学部長が面談等により指導し、留年者を出さないように取り組んでいる。留年者には、担任又はアドバイザーが重点的なケアを実施している。特にメンタル面でのケアを重視し、必要に応じて各委員会や関係各署と連携を取り、対応している。また、休・退学希望者については、その理由について本人・保護者・担当教員が面談等を通じて把握し、再修学を基本とした指導・支援を行っている。最終的に休・退学を希望する場合は、願書を提出させて教務委員長、学生部長、学部長が確認のうえ、教授会で審議し、学長が許可している。また、研究科においても講義受講状況や研究進捗状況等を確認する等、研究指導教員及び各キャンパス事務室が連携を取りながら状況把握を行い、指導・支援を行っている。
- 9) 医学部の国家試験への取組みとして、卒業支援を担当する教員が学習面・メンタル面のケアを行っている。成績下位の学生には、学習の進捗状況を報告させ、個別対応を行う等の重点的なサポートが実施されている。国家試験対策の外部講座・外部模試を積極的に活用し、現在の学力を客観的に把握させ、合格へのサポートを行っている。この外部講座・外部模試を

第6章 学生支援

実施している業者との調整等は、学生の自主組織である国家試験対策委員が行っており、大学のみならず学生全体で国家試験合格をバックアップしていく風土が備わっている。

10) 医療看護学部・保健看護学部においては、それぞれ国家試験対策委員会・国家試験対策ワーキンググループを組織し、教員による個別相談や学生全体へのオリエンテーション、補講、模擬試験等を実施することで国家試験対策を行っている。4年次には希望者を対象に通常の講義の他に各分野の教員による国家試験に向けた特別講義を開講している。

11) 国際教養学部では言語学習センターを設置し、常駐している教員による外国語学習におけるカウンセリングを受けることができる他、課題やレポート等に効果的に取り組める設備が整っている。正規カリキュラムと自習を有機的に連動させ、学習成果を上げられ、自立性を育む環境を整えている。

(資料6-25 国際教養学部ホームページ「言語学習センター」)

12) 教員に限らず大学院生も応募可能な研究費として、学内の公募型研究制度である「共同プロジェクト研究費」と「学長特別共同プロジェクト研究費」を設けている。「共同プロジェクト研究費」は、1課題につき60万円を上限とし、2016(平成28)年度は45名の大学院生が採択されている。また、学長特別共同プロジェクト研究は1課題あたり200万円を上限とし、2016(平成28)年度は3名の大学院生が採択された。

(資料6-26 共同プロジェクト研究の募集について)

(資料6-27 学長特別共同プロジェクト研究費公募要領)

13) 社会人学生を受け入れていることから、社会人学生への配慮として、平日の夜間や土曜日にも開講し、社会人学生が修学しやすいように時間割を工夫している。

(資料6-28 大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表)

(資料6-29 大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表)

(資料6-30 大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表)

(資料6-31 大学院医療看護学研究科年間授業時間割表)

14) 医学研究科では外国人留学生を対象に、英語のみによる講義である「大学院特別講義(英語)」や「日本語講座①(初級)」、「日本語講座②(中・上級)」及び「日本語講座③(研究科長日本語特別講義)」のほか、2015(平成27)年度より試験的に「日本語集中プログラム」を実施している。

(資料6-32 Unit3 大学院特別講義(英語))

(資料6-33 Unit3 日本語講座①②③)

(資料6-34 日本語集中プログラム①②)

15) 医学研究科では修士課程・博士課程それぞれに履修管理システム(研究進捗ポートフォリオシステム)を導入しており、大学院生の履修状況、研究進捗状況の把握を行っている。また、当システムにはVOD機能を搭載しており、補習・補充教育のために講義動画を視聴できるほか、修士課程学生用のシステム上にて、博士課程の講義等情報が確認できるよう環境を整備しており、希望者には博士課程の講義聴講を認めている。

(資料6-35 医科学専攻(修士課程)履修管理システム(研究進捗ポートフォリオシステム)博士課程授業日程表画面データ)

16) 医学部とスポーツ健康科学部の1年次は全寮制をとっており、日常生活としての基本的な習慣を身につけ、規律の遵守、共同生活から学ぶ社会性等を実際の生活の場から体得させて

いる。また、啓心寮では寮生一人ひとりが「自由に振舞って然も他人に迷惑を及ぼさない行動が出来るようになる」ことを目標に、教職員の指導と助言を得て、寮則及び寮生が定めた寮生規則に則って、寮生より選出された2年生の寮役員と1年生寮生とにより自治的に運営されている。

17) 障害のある学生については、個々の事情を勘案し、各委員会で状況を報告して必要な対処を行っている。キャンパス内の必要な箇所に、手すり、エレベーター、障害者用トイレが設置されている。さくらキャンパスではノートテイクと手話通訳者を配置するなど、聴覚障害や肢体不自由な学生に対しては個別に対応している。受験の申し出があれば、入試委員会で受験資格や対応の確認を行い、入学後は、学生部を中心に支援している。

《学生の生活に関する適切な支援の実施》

【評価の視点】

- ・学生の相談に応じる体制の整備
- ・ハラスメント(アカデミック、セクシュアル、モラル等)防止のための体制の整備
- ・学生の心身の健康、保健衛生及び安全・衛生への配慮

1) 学内ホームページに「ハラスメントのない明るいキャンパス・職場とするために」を掲載している。ハラスメントをセクシュアルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントなど、行為者本人の意図のいかんに関わらず、相手方の人権や人格の尊厳を傷つける不適切な言動と定義し、「1 ハラスメントとは?」、「2 被害者・加害者を出さないために」、「3 もしハラスメントの被害にあってしまったら…」について説明している。ヘルプ・ラインの部署も教職員、学生ごとに掲載している。

(資料6-36 学内ホームページ 「ハラスメントのない明るいキャンパス・職場とするために」)

2) 2016(平成28)年7月1日付で「学校法人順天堂におけるハラスメントの防止等に関する規程」を制定するとともに、キャンパスごとに制定されている「セクシュアルハラスメントト防止人権委員会規程」を「人権委員会規程」に改正し、体制を整備した。

(資料6-37 「順天堂ニュース2016 7月1日号 NO.2126 P32~P40」)

3) 各キャンパス健康管理室に校医や保健師を配置しており、日常的な学生の健康サポート、具合が悪くなった際の迅速かつ手厚いサポートをとれる体制を整備している。健康診断は、春期に全員を対象に実施し、秋期は健康管理室より指示された者を対象に実施している。また、無料でインフルエンザ予防接種を実施しており、病院実習前には麻疹・風疹・水痘・ムンプスの予防接種を受けるよう指導している。

(資料6-9 学校法人順天堂健康管理規程)

(資料6-38 平成28年度 事業報告(資料編) 「I-27.健康診断実施状況」)

4) 「順天堂大学職員・学生等の寮管理規程」では、学生(大学院生含)、臨床研修医、海外留学生等にも入寮資格が与えられており、居住環境の支援が行なわれている。

(資料6-39 順天堂大学職員・学生等の寮管理規程)

5) 学生生活全般の相談(心の健康・対人関係・学業や進路・クラブ活動・寮生活・その他の生活一般)に対する相談窓口として学生相談室等を設置しており、精神科医(学生相談室長)、臨床心理士・精神保健福祉士及び担任・アドバイザー教員を含むスタッフが、カウンセラー

第6章 学生支援

として対応できるよう体制を整備している。また、研究科についても同様の体制を整備している。また、相談体制については学生便覧等にて学生へ案内している。

(資料6-40 担任制・アドバイザー制)

- 6) 学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度等に全学生が加入することで、教育、研究中の不慮の事故に備えている。また、不慮の事故に遭遇した場合の対処方法について、学生便覧に記載し、新学期オリエンテーションで確認している。夜間・休日であっても、守衛を介して関係部署に連絡がとれる体制を整備している。

(資料6-41 学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度)

- 7) 研究施設における安全衛生管理については、実験には一定のリスクが存在するとの認識のもと、これを限りなく減らすために継続的な改善等に加え、アイソトープ実験室利用者講習会、組換えDNA(動物実験)講習会、危機管理等に関する講習会(事故/インシデント・レポート)、倫理審査申請講習会、知財・成体物に関する講習会、病原体等安全管理に関する講習会などの多くの講習会を開催しており、より安全な研究教育環境づくりを行っている。

(資料6-42 研究施設における安全衛生管理)

- 8) 課外活動が非常に盛んで、原則、教授又は先任准教授がクラブ又は同好会の部長・顧問となり指導している。

(資料6-38 平成28年度 事業報告(資料編) 「Ⅱ-2. 学部の状況 クラブ活動」)

《学生の進路に関する適切な支援の実施》

【評価の視点】

- ・学生のキャリア支援を行うための体制(キャリアセンターの設置等)の整備
- ・進路選択に関わる指導・ガイダンスの実施

- 1) 医学部に卒業支援委員会を、スポーツ健康科学部に就職課・就職委員会を、医療看護学部には国家試験対策委員会を、保健看護学部には国家試験対策ワーキンググループ・就職関係ワーキンググループを置き、各学部の特色に合った資格取得支援・進路支援・就職支援を行っている。大学院各研究科では、それぞれ研究指導教員及び研究指導補助教員が中心となり、進路指導・キャリア支援を行っている。
- 2) 医学部では4年次より初期臨床研修マッチングに関するオリエンテーションを実施し、本学医学部附属病院の説明会を適宜、開催している。
- (資料6-43 卒業生の初期臨床研修状況)
- 3) 2014(平成26)年度の医学部6年(平成27年度就任予定の初期臨床研修医)より、医師キャリアパスを早い段階から意識できるよう1年目に選択科目2ヵ月(将来の進路希望科)を設定し、内科6ヵ月、救急部門3ヵ月、必修科目麻酔科1ヵ月とした。2年目に必修科目として外科・小児科・産婦人科・精神科各1ヵ月、地域医療1ヵ月、選択科目(将来専門としたい診療科、関連科、選択科等)7ヵ月とし、附属6病院群での研修を自由に選択することができるプログラムとしている。

第6章 学生支援

【平成27年度以降の初期臨床研修スケジュール】

研修1年次

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|----|----|----|----|----|-------------|-----|-----|------------|------|----|
| 必修科目 | | | | | | | | | | 選択科目 | |
| 内科 6ヵ月 | | | | | | 救急部門 3ヵ月 | | | 麻酔科 1ヵ月 | 2ヵ月 | |

研修2年次

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-------------|-----------|------------|-------------|------------|-----------------------------|-----|-----|-----|----|----|----|
| 必修科目 | | | | | 選択科目 | | | | | | |
| 地域医療 1ヵ月 | 外科 1ヵ月 | 小児科 1ヵ月 | 産婦人科 1ヵ月 | 精神科 1ヵ月 | 将来専門としたい診療科・関連科・選択科等 7ヵ月 | | | | | | |

- 4) 初期臨床研修（レジデント）修了後、3年目以降のキャリアパスを描けるように大学院へ進学することを軸とした「大学院・シニアレジデントコース」を設けている。更に初期臨床研修1年目に大学院入学を可能にすること（基礎医学研究者養成プラン等）や、学位とその後の専門医の同時取得も可能にすることに配慮している。
- 5) 大学院医学研究科において、修士課程では、高度専門職業人を目指す社会人大学院生に対し、学生自身の専門分野に加え、幅広い医学の基礎知識を修得できるよう教育を行ない、医療分野のみならず多様な業種の研究開発部門、営業技術部門、サービス部門等のスタッフとして活躍できるよう研究指導を行っている。博士課程への進学を希望する修士課程大学院生に対しては、研究科説明会において進学説明を行なっている。また、医学研究科において毎年5回実施している定期語学試験に合格した者については入試受験時の語学試験が免除されるが、修士課程大学院生も受験対象とし、博士課程への進学を推奨している。博士課程の大学院生の多くは本学教員等の職に就くことを希望するため、各講座・研究室において、具体的な進路指導・相談を行っている。博士課程シラバスには、各講座・研究室におけるキャリアパスの例が複数明示されており、大学院生は自身の希望する進路に向け計画的な学修を行っている。
- （資料6-44 定期語学試験実施要項）
（資料6-45 大学院生キャリアパス例）
- 6) 医療看護学部及び保健看護学部ではアドバイザー教員との個別面談に加え、必要に応じて学生の相談に応じている。また、就職資料を多数用意した就職コーナーの設置、医学部附属6病院就職説明会や市町村の就職説明会等、広く就職先を検討できる機会を設けているほか、就職試験対策やマナー研修会等も開催している。大学院医療看護学研究科においては研究分野ごとのキャリアパスに応じて、研究指導教員が進路指導を行っている。
- 7) 全学的な教職課程運営組織として、「教職課程センター」を設置しており、教員養成を推進している。
- 8) スポーツ健康科学部では、学部長の他、3学科から選出された教員に学部長より指名された教員を加えた14名から成る就職委員会と就職課が、保健体育科や特別支援学校等の教員採用試験、スポーツ・健康関連企業への就職を軸に進路支援を行っている。大学院スポーツ健康科学研究科の進路支援については、研究指導教員及び大学院就職委員会（2名構成）や就職課職員がその任にあっており、就職課においてはスポーツ健康科学部の学生と同様に個別相談が受けられる体制が整備されている。

第6章 学生支援

9) スポーツ健康科学部の学生への就職ガイダンスは、2年次の4月に「将来の進路・就職を考える」特別講座を開催している。3年次の秋には、本格的な就職活動に入る前の重要な準備期間であることから、就職市場動向の説明、教員採用試験対策講座、公務員試験対策講座、SPI3対策講座の他、面接マナー、グループディスカッション対策講座、個人面接対策講座などを順次実施している。これら就職対策の研修会は、3年生対象講座で約90日、4年生対象講座で約40日にわたり実施している。教員を目指す学生への備えとして、就職課内に学生の修学支援、指導を目的とした「進路相談室」が設置されている。担当教員が、教員採用試験に向けて正課外での勉強会運営、進路相談、アドバイスの他、面接試験対策や履歴書、エントリーシート作成等の個別指導を行っており、各種対策講座と併せ充実したフォローがなされている。また、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムに採択され、2009(平成21)年度よりスタートした本学独自の「スポーツ系大学生の社会的実践能力を育むキャリア支援」は2012(平成24)年3月に終了(文部科学省より「S」評価)したが、その良好な結果を踏まえ、以降も学生能力開発支援プログラムとして2年次後期より自己分析・業界研究講座等を継続して実施している。更に、2015(平成27)年度より「総合講座Ⅱ」として正課の授業に取り込んで展開することで、幅広い職業観を全員が形成できるよう働きかけ、希望進路の決定及び就職対策への早期着手に大きく寄与している。

(資料6-46 平成28年度 就職支援研修会・講座行事予定)

10) 国際教養学部ではキャリア教育を1年次より正規の科目として単位化している。入学直後の初年度から直ちに始め、4年間の勉学や学生生活、将来の目標をキャリア設計に活かせるようにしている。また、キャリア支援委員会がさくらキャンパス事務部就職課と連携を取り、効果的な就職支援の方法を検討している。

《学生の正課外活動(部活動等)を充実させるための支援の実施》

〈1〉 大学全体

1) 各学部において、部活動に対する活動費について、活動内容や状況に応じて補助を行っている。

〈2〉 医学部

- 1) クラブの活動内容や状況に応じて、学生部よりクラブ活動補助費を支給している。
- 2) 入学時に、課外活動中の事故等も対象となる学生教育研究災害傷害保険に全員加入しており、怪我や事故等が発生した際に保険金請求手続きを行っている。
- 3) クラブで学内施設を利用する際に貸出し手続きを行っている。学外施設を利用する際には、必要に応じて事務的な支援を実施している。
- 4) 事故や怪我を未然に防ぐために、毎年メディカルチェックやスポーツ安全対策講習会を実施している。

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 運動部の指導者で組織された運動部指導者会を年2回開催し、運動部における諸問題を話し合っている。また、その運動部指導者会の選挙で選出された指導者により、運動部運営委員会を構成し、毎月、委員会を開催し、運動部における諸問題をより詳細に話し合い解決するようにしている。
- 2) 運動部運営委員会が主催となり、運動部マネージャー会議を年2回開催している。そこでは、

各クラブのマネージャーより問題点を吸い上げ、運動部運営委員会で改善するように検討している。

- 3) 各運動施設の管理担当教員を決め、運動施設に不具合が生じた際は、速やかに修繕するようにしている。
- 4) クラブ活動中の怪我などに備え、各クラブにスポーツ安全保険について案内し、加入を推奨している。

〈4〉 医療看護学部

- 1) 各クラブ団体の合宿や遠征の際に、学外活動補助費用を支出し活動の支援を行っている。
- 2) 各クラブ団体顧問に対して補助費用を支出し活動援助の支援を行っている。
- 3) 正課におけるアメリカ研修のほか、正課外においてイギリス（デモントフォート大学）、タイ（タマサート大学）、フィンランドへの海外研修の機会を設けている。なお、研修費用の一部については、同窓会の援助を頂いている。
- 4) 1年次4月にフレッシュヤーズデイキャンプを開催し、レクリエーションを通して学生間交流を促すことで学生生活が円滑に始められるようサポートしているほか、自転車安全・防犯講習会や消費生活トラブル防止講座を実施することで学生生活上の危険及び防止について教授している。また、自治会主催により開催されるスポーツ祭や学園祭（順華祭）について、学生部委員会が適宜バックアップを行っている。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 自治会の会合において、入学時に保護者が収めている自治会費（計5万円）の部活動等に関する配分が決定されている。三島キャンパス学生部及び部顧問（教員）が責任をもって部活動の指導と支援を行っている。

〈6〉 国際教養学部

- 1) 課外活動団体の活動内容や状況に応じて、活動補助費を支給している。
- 2) 入学時に、課外活動中の事故等も対象となる学生教育研究災害傷害保険に全員加入しており、怪我や事故等が発生した際に保険金請求手続きを行っている。
- 3) 課外活動団体の学内施設を利用する際に貸出し手続きを行っている。学外施設を利用する際には、必要に応じて事務的な支援を実施している。

〈7〉 大学院医学研究科

- 1) 大学院医学研究科では、研究留学、海外研修等で英語力を問われるケースに対応できるよう、TOEFL、IELTS等の国際標準の英語テストで高得点を獲得するための高度な Academic English の力を養成することと、ハイレベルな英語でのプレゼンテーションや医療面接の指導を目的として順天堂国際医学教育塾（Juntendo International Institute for school of Medicine (JINISM)）を開講している。①総合英語コース・②テンプル大学夜間コース・③IELTS コース・④USMLE コースの4コースを設定し、英語学習に強い意欲をもつ大学院生に学習の場を提供している。

（資料6-47 順天堂国際医学教育塾実施要領）

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 毎年実施されている大学院FD講演会への参加を全学年の院生へ周知し参加を促している。
- 2) 各発表会（研究計画発表会・修士論文発表会・研究経過発表会・博士論文発表会）に関しては下級学年への参加を促している。

第6章 学生支援

- 3) 浦安キャンパス、三島キャンパス及び本郷・お茶の水キャンパスにそれぞれ大学院生のための自習室・研究室を設け、正課外の自己学習や研究等にも活用できるよう環境を整備している。
- 4) 医療看護学部主催による「医療看護研究会」について、大学院生の参加も可とし、研究成果の発表の機会を提供するとともに学識を研鑽する場としても機能している。

《その他、学生の要望に対応した学生支援の適切な実施》

〈1〉 大学全体

- 1) 毎年1回、定期的に合同学生部委員会を開催し、各学部学生部長から活動状況の報告を行い、学生の要望に応じた学生支援が行われているか、把握している。
- 2) 各学部におけるカリキュラム委員会、教務委員会及びFDワークショップに代表学生が参加しており、カリキュラムに対する学生の意見・要望を吸い上げ、対応するようにしている。

〈2〉 医学部

- 1) 2016(平成28)年度にM6学生自習室をセンチュリータワー北棟12階に移設した際に、新しい什器備品を設置した。自習室の開放時間は原則6時～24時としているが、学生の要望に応え、試験前には使用時間延長願を提出することによって開放時間を超えて使用出来るように運用している。
- 2) 2015(平成27)年度に、元町ビル体育館トレーニングルームの機材を一部更新し、クラブ活動の充実化を図った。

〈3〉 スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科

- 1) 教育施設・設備を充実すべく、2017(平成29)年3月、教室の改修を行った。250人規模の教室1室、50人規模の教室4室を新たに整備した。また、同年3月、女子寮の新設に合わせ、旧来の学生寮全室にエアコンを設置し、2020(平成32)年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、体操競技場・スカッシュコート・AT(Athletic Trainer)ルームも新設し運動設備の一層の充実を図った。
- 2) 2015(平成27)年4月より、さくらキャンパスと京成酒々井駅間の夜間(22～24時)貸切りワゴンタクシーを無料化し、利便性の向上と学生の安全確保を図っている。年間1千人だった利用者は、3千人程度まで増加した。(同サービスは2001(平成13)年度から提供しており、1回160円を徴収していた。)

〈4〉 医療看護学部

- 1) 学生生活実態調査及びクラス委員との連絡会での学生の要望を受け、学内食事スペースの拡充を行った。
- 2) 学生・教職員合同カリキュラム委員会においては、カリキュラムについてのみならず学修環境及び学生生活全般に係る意見・要望を聴取しており、必要に応じて該当の委員会や教職員に伝え、対応を検討する体制を整えている。

〈5〉 保健看護学部

- 1) 学生から要望に応え、学生全員に防犯ベルの配布を行っている。
- 2) 学生から要望に応え、キャンパス内で教員と警備員が各々安全・安心パトロールを行っている。
- 3) 男子ロッカーの容量が小さいことに対する改善要望に対し、ロッカーのサイズを大きくした。

〈6〉 国際教養学部

1) 言語学習の充実化を図るため、学内に設置する図書の数に随時増やしている。

〈7〉 大学院医学研究科

1) 大学院医学研究科では 2014(平成 26)年度以降の博士課程入学者のうち医師免許を有し、本学医学部附属病院において常勤医として診療に従事している大学院生を対象に、月額 10 万円の診療手当を支給することで大学院生が学修に専念できるよう環境を整備している。また、本学以外の研究施設における学修を希望する大学院生には、学外施設学修申請書及び研究計画書を提出させ、研究科委員会での審議をもって学外施設での研究活動を認め、単位認定をしている。

(資料 6-48 学外施設学修申請書・研究計画書)

〈8〉 大学院医療看護学研究科

- 1) 大学院生からの要望で、本郷・お茶の水キャンパスの大学院自習室の環境改善として、文具・備品等の購入を行った。
- 2) 大学院生からの申請に基づくティーチング・アシスタント (TA) 制度を導入しており、採用された院生は学部講義の補助を行っている。経済的な支援のみならず、院生が将来教員や研究者になるためのトレーニングの機会を提供している。
- 3) 大学院生からの要望に応じて、教員との相談により学内研究費等を使用しての学会発表等への参加を認めている。

3) 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。

【評価の視点】

○適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価

〈1〉 大学全体

1) 全学生を対象とした学生生活実態調査 (アンケート) において、大学による学生支援に関する調査項目を設け、5 学部合同学生部委員会にて実態を把握している。

(資料 6-49 5 学部 合同学生部委員会議事録(平成 28 年 12 月))

〈2〉 医学部

1) 毎月 1 回 (9 月は 2 回)、学生部委員会を開催し、学生にも委員会へ参加して生の声を聞くなどして、学生支援の適切性について検証を行っている。

(資料 6-50 医学部 学生部委員会議事録(平成 28 年 10 月))

〈3〉 スポーツ健康科学部

1) 学生支援の適切性については、毎月の学生部委員会、就職委員会等において、検証されている。必要な際には、状況や就職にかかる諸係数の報告・検討が行われている。問題が生じている場合には、各学科会や教授会等にて、徹底がなされている。

(資料 6-51 スポーツ健康科学部 就職委員会議事録(平成 28 年 6 月))

〈4〉 医療看護学部

1) 毎月、学生部委員会を開催し、学生支援の適切性について検証を行っている。

(資料 6-52 医療看護学部学生部委員会議事録 (平成 28 年 6 月))

2) 教務委員会の下部組織である国家試験対策委員会においては、学生の成績や国家試験の動向を踏まえ、その取り組みや支援の方法を検証している。

第6章 学生支援

(資料6-53 医療看護学部教務委員会議事録抜粋(平成29年3月))

〈5〉 保健看護学部

1) 三島キャンパス学生部にて、アドバイザーグループ支援に対して、その適切性を年2回定期的に検証している。

(資料6-54 保健看護学部 学生部委員会議事録(平成29年3月))

〈6〉 国際教養学部

1) 毎月1回、学生部委員会を開催し、学生にも委員会へ参加して生の声を聞くなどして、学生支援の適切性について検証を行っている。

(資料6-55 国際教養学部 学生部委員会議事録(平成28年5月))

〈7〉 大学院医学研究科

1) 医学教育・卒後教育ワークショップにて、大学院生の受け入れ促進に向けたカリキュラム・学習環境の見直しについての討議が行われ、大学院生活のサポート強化や社会人以外の修士課程大学院生に対する就職支援が必要であるなどの提言、OB/OGとの情報交換の場の提供、大学院生表彰制度の導入といった解決策の検討が行われている。ワークショップにおける提言・解決策の案については、最終的に医学研究科委員会にて報告されている。

(資料6-56 大学院医学研究科委員会議事録(平成28年9月))

〈8〉 大学院スポーツ健康科学研究科

1) 必要の際又は問題が生じている場合には各委員会にて採り上げる体制にはあるものの、大学院生の支援は、教員の個別指導が主としており、これまで特段大きな問題は生じていないため、特に議題には上がっていない。アンケート結果や就職状況の確認自体が適切性の検証と捉えている。

〈9〉 大学院医療看護学研究科

1) 研究科委員会において、教育要綱の「学生生活」項目の見直しを、担当者を決め毎年実施している。

(資料6-57 医療看護学研究科委員会議事録抜粋(平成28年10月))

2. 点検・評価

[基準6]

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生支援に関する方針を明確にし、その方針に沿って、学生が学習に専念し、安定した学生生活を送る上で必要となる修学支援、生活支援及び進路支援を適切に行わなければならない。

●基準6の充足状況

学納金減免、奨学金に係る各種規程が整備されている。各学部・研究科において、学生支援を行う専門の部署があり、学修に専念できるよう各種支援が行われている。毎年、全学部で統一した学生生活実態調査を実施し、学生生活及び学修行動の実態把握を行うことにより、学生支援の充実化が図られている。規程に基づき、各キャンパスにてハラスメントのない教育研究環境を確保するよう努めている。国家試験や教員採用試験に対する取組みは、対策委員会やワーキンググループ等の活動が有効に機能し、高い合格率を誇っている。各学部・研究科の特色にあった進路支援、就職支援が行われている。以上のことから、基準を満たしている。

①効果があがっている事項

- 1) 全学部で統一した学生生活実態調査（アンケート）を実施し、定期的に学生生活及び学修行動の実態が把握できており、実態を踏まえた指導が行えている。
- 2) 医学部では、医師国家試験に対する充実したサポート体制により、学生が存分に力を発揮することができており、国公立大学 80 校中、過去 5 年間平均・過去 10 年間平均ともに第 2 位という高い国家試験合格率に繋がっていると言える。
(資料 6-58 順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」)
- 3) 2016（平成 28）年度の初期臨床研修医マッチング数（平成 29 年度就任予定）において、順天堂大学 4 附属病院（本郷・静岡・浦安・練馬）が昨年度に引き続き、全国国公立大学中 1 位の 145 名となった。自大学（順天堂大学出身）の医学生は 4 附属病院合計で 83 名であり、自大学生数も全国国公立大学中で 1 番多い数である。
(資料 6-59 初期臨床研修医マッチング数・マッチ率推移)
- 4) 大学院医学研究科では、入学金減免、成績優秀者や私費外国人留学生の授業料減免、学費の分納、公募型研究費の配分等、経済的支援が充実している。また、2014（平成 26）年度以降の博士課程入学者のうち医師免許を有し、本学医学部附属病院において常勤医として診療に従事している大学院生を対象に、月額 10 万円の診療手当を支給している。これらの取組により大学院生が学修に専念できるような環境が整備されていることで、大学院修了者数が増加していると言える。
- 5) 医療看護学部及び保健看護学部では、看護師国家試験、保健師国家試験、助産師国家試験で、いずれも高い合格率を誇っており、両学部の卒業生は、ほぼ希望通りの進路に進んでいる。医療看護学部では、医学部附属 6 病院への就職率は 2014（平成 26）年度 86.2%、2015（平成 27）年度 88.8%、2016（平成 28）年度 85.1% である。保健看護学部では、2013（平成 25）年度 71.1%（第 1 回生）、2014（平成 26）年度 52.5%（第 2 回生）、2015（平成 27）年度 63.3%（第 3 回生）、2016（平成 28）年度 63.0%（第 4 回生）である。「地域に貢献できる看護職者の育成」に応えるべく、第 1 回生は 72.8%、第 2 回生は 66.1%、第 3 回生は 63.3%、第 4 回生は 58.8% が地元静岡県内で就職している。また、第 1 回生 3 名、第 2 回生 7 名、第 3 回生 10 名、第 4 回生 5 名が保健師として県市町に就職している。
(資料 6-58 順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」)
- 6) スポーツ健康科学部では、教職を希望する学生への支援、公務員、企業への就職希望者への支援が早い段階から行われており、それぞれ高い就職率である。2 年次より学生能力開発支援（キャリア支援）を目的とした「総合講座Ⅱ」を展開し、3 年次にはそれぞれの進路目標ごとに研修会・講座を用意している。3 年次後半からはエントリーシートの添削、模擬面談等個人指導に重点を置く等計画的な支援、フォロー体制が整備されている。企業就職内定率は、2015（平成 27）年度に続き、2016（平成 28）年度も 100% を達成した。また、教員採用試験においては、進路指導室による授業開始前の朝の勉強会の他、教員志望者に対する正課外でのグループ学習の実施等が奏功し、少子化の進展等により保健体育科教員の採用環境が厳しい中、国公立合格者及び公立補欠合格者を含む現役合格者は延べ 46 人（前年度 40 名）と前年を上回った。
(資料 6-58 順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」)

3. 将来に向けた発展方策

①効果があがっている事項

- 1) 学生生活実態調査（アンケート）を継続し、学生生活及び学修行動の実態把握に努め、きめ細かい学生支援を継続していく。
- 2) 医学部では、毎年、医師国家試験の内容について分析を行い、低学年の試験から、国家試験に沿った問題を出題する等、早い段階から意識させ取り組んでいく。
- 3) 診療現場（臨床実習の現場）において、指導医・臨床研修医が医学生に対し実際の指導だけでなく、彼らの医師キャリアパスを具体的に示すなど卒前・卒後のシームレス化を目指している。今後、更に順天堂大学4附属病院の相互間の研修を行い、3年目以降の進路に繋げるプログラムとして充実を図る。

（資料6-60 2年次の選択科目研修時における各附属病院間の研修の一例）

- 4) 大学院医学研究科では、以前より実施している経済的支援に加え、2014（平成26）年度から開始した博士課程大学院生（医師）への診療手当支給についても継続的に実施し、大学院生が学修に専念できる環境を整備していく。
- 5) 医療看護学部及び保健看護学部では、各種国家試験対策に係る取り組みを継続し、高い合格率を維持する。また、早い段階からキャリア教育を行うとともに就職に関する各種支援を継続し、高い就職率を保てるようにする。学生が記入した就職希望調査票に基づき、進路が確定するまで、アドバイザー、学生部委員会、事務室が連携しながら、学生一人ひとりの希望に沿うように就職や進学への支援・指導を行っている。保健看護学部では、地元の静岡県内への就職者を多く出せるよう、就職支援・指導を継続する。保健師教育課程必修も維持し、保健師としての就職者を多く輩出するとともに保健師の知識・実践力を兼ね備えた看護師を養成していく。
- 6) スポーツ健康科学部では、2015（平成27）年度より、2年生を対象として9月中旬に実施される3日間の集中講義による「総合講座Ⅱ」を正課の授業として導入し、学生の能力開発に係るプログラムをより充実したものにするよう鋭意検討を重ねている。様々なステージで活躍するOBやOGを招聘し、またグループワークやディベートを用いたアクティブラーニング方式を採用するなど、今後更なるキャリア支援の質的量的な向上を目指して、漸進的な教育内容の見直しに着手していく。

第6章 学生支援

4. 根拠資料

| 根拠資料No. | 各部署の資料整理No. | 資料名称 |
|---------|-------------|--|
| 資料6-1 | 総務6-1 | 順天堂ホームページ 「情報公開（基本情報）」 「各種方針」 「学生の支援に関する方針」 http://www.juntendo.ac.jp/about/information/policy.html |
| 資料6-2 | 医6-1 | 順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス学生生活案内 |
| 資料6-3 | ス6-1 | 順天堂大学さくらキャンパス CAMPUS LIFE（既出 資料4-3-5） |
| 資料6-4 | 医看6-1 | 医療看護学部学生便覧 |
| 資料6-5 | 保看6-1 | 保健看護学部学生便覧 |
| 資料6-6 | 総務6-2 | 学校法人順天堂組織規則（既出 資料2-1） |
| 資料6-7 | 総務6-3 | 学校法人順天堂事務組織規程 |
| 資料6-8 | 総務6-4 | 平成28年度 合同学生部委員会 学生生活実態調査結果比較資料 |
| 資料6-9 | 総務6-5 | 学校法人順天堂健康管理規程 |
| 資料6-10 | ス6-2 | スポーツ健康科学部学生要覧 |
| 資料6-11 | 院医6-1 | 大学院医学研究科修士課程シラバス（既出 資料4-1-10、資料4-2-12） |
| 資料6-12 | 院医6-2 | 大学院医学研究科博士課程シラバス（既出 資料4-1-11、資料4-2-14） |
| 資料6-13 | 院ス6-1 | 大学院スポーツ健康科学研究科博士課程要覧（既出 資料4-3-45） |
| 資料6-14 | 院看6-1 | 大学院医療看護学研究科教育要項（既出 資料4-1-13、資料4-2-18） |
| 資料6-15 | 院医6-3 | 大学院医学研究科博士課程連携大学院（既出 資料4-3-16、資料5-22） |
| 資料6-16 | 院ス6-2 | 大学院スポーツ健康科学研究科パンフレット（既出 資料1-7、資料4-3-22） |
| 資料6-17 | 院看6-2 | 大学院医療看護学研究科パンフレット（既出 資料1-8） |
| 資料6-18 | 総務6-6 | 災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程 |
| 資料6-19 | 総務6-7 | 経済的理由による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程 |
| 資料6-20 | 総務6-8 | 順天堂大学外国人留学生授業料減免規程 |
| 資料6-21 | 総務6-9 | 卓越した学生に対する学納金減免に関する規則 |
| 資料6-22 | 総務6-10 | 順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金給付規程 |
| 資料6-23 | 総務6-11 | 奨学金給付・貸与状況 |
| 資料6-24 | 院医6-4 | 大学院生・シニアレジデント処遇について |
| 資料6-25 | 国教6-1 | 国際教養学部ホームページ「言語学習センター」 |
| 資料6-26 | 院医6-5 | 共同プロジェクト研究の募集について |
| 資料6-27 | 院医6-6 | 学長特別共同プロジェクト研究費公募要領 |
| 資料6-28 | 院医6-7 | 大学院医学研究科修士課程年間授業時間割表（既出 資料4-2-13） |
| 資料6-29 | 院医6-8 | 大学院医学研究科博士課程年間授業時間割表（既出 資料4-2-15） |

第6章 学生支援

| 根拠資料No. | 各部署の 資料整理No. | 資料名称 |
|---------|-----------------|---|
| 資料6-30 | 院ス6-3 | 大学院スポーツ健康科学研究科年間授業時間割表（既出 資料4-2-17） |
| 資料6-31 | 院看6-3 | 大学院医療看護学研究科年間授業時間割表（既出 資料4-2-19、資料4-3-24） |
| 資料6-32 | 院医6-9 | Unit3 大学院特別講義（英語） |
| 資料6-33 | 院医6-10 | Unit3 日本語講座①②③ |
| 資料6-34 | 院医6-11 | 日本語集中プログラム①② |
| 資料6-35 | 院医6-12 | 医科学専攻（修士課程）履修管理システム（研究進捗ポートフォリオシステム）博士課程授業日程表画面データ |
| 資料6-36 | 総務6-12 | 学内ホームページ 「ハラスメントのない明るいキャンパス・職場とするために」 |
| 資料6-37 | 総務6-13 | 順天堂ニュース 2016 7月1日号 NO.2126 |
| 資料6-38 | 総務6-14 | 平成28年度 事業報告（資料編） |
| 資料6-39 | 総務6-15 | 順天堂大学職員・学生等の寮管理規程 |
| 資料6-40 | 総務6-16 | 担任制・アドバイザー制 |
| 資料6-41 | 総務6-17 | 学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度 |
| 資料6-42 | 院医6-13 | 研究施設における安全衛生管理 |
| 資料6-43 | 医6-2 | 卒業生の初期臨床研修状況 |
| 資料6-44 | 院医6-14 | 定期語学試験実施要項 |
| 資料6-45 | 院医6-15 | 大学院生キャリアパス例 |
| 資料6-46 | ス6-3 | 平成28年度 就職支援研修会・講座行事予定 |
| 資料6-47 | 院医6-16 | 順天堂国際医学教育塾実施要項 |
| 資料6-48 | 院医6-17 | 学外施設学修申請書・研究計画書 |
| 資料6-49 | 総務6-18 | 5学部 合同学生部委員会議事録（平成28年12月） |
| 資料6-50 | 医6-3 | 医学部 学生部委員会議事録（平成28年10月） |
| 資料6-51 | ス6-4 | スポーツ健康科学部 就職委員会議事録（平成28年6月） |
| 資料6-52 | 医看6-2 | 医療看護学部学生部委員会議事録（平成28年6月） |
| 資料6-53 | 医看6-3 | 医療看護学部教務委員会議事録抜粋（平成29年3月） |
| 資料6-54 | 保看6-2 | 保健看護学部 学生部委員会議事録（平成29年3月） |
| 資料6-55 | 国教6-2 | 国際教養学部 学生部委員会議事録（平成28年5月） |
| 資料6-56 | 院医6-18 | 大学院医学研究科委員会議事録（平成28年9月） |
| 資料6-57 | 院看6-4 | 医療看護学研究科委員会議事録抜粋（平成28年10月） |
| 資料6-58 | 総務6-19 | 順天堂ホームページ 「国家試験・教員採用試験・就職内定率」 http://www.juntendo.ac.jp/department/success.html （既出 資料4-3-49） |
| 資料6-59 | 臨修6-1 | 初期臨床研修医マッチング数・マッチ率推移 |
| 資料6-60 | 臨修6-2 | 2年次の選択科目研修時における各附属病院間の研修の一例 |